



「つまずき」を基にリーディングスキル（RS）の視点で改善策を考える

各校で中学校区研究会が開催されています。どの学校においても、リーディングスキル（RS）に着目して授業における手立てを考えた実践が見られます。協議会では、先生方が互いに意見を出し合い、手立ての良さや課題を見いだしています。

燕中学校では、研究授業後の協議会の進め方を工夫し、参加者一人一人にとっての深い学びにつながるよう工夫しています。その取組を紹介します。

10/13 燕中学校研究会の協議会について

協議題

本時の授業内での生徒たちの「つまずき」を基に、RSの視点も踏まえて授業改善の方策を考える。

進め方

- ① 参観者を3つのグループに分け、各グループが見る担当班（授業時の生徒の班）を決めて、授業時の生徒の様子を見取る（各自付箋に生徒の言動や行動を記録する）。
- ② 協議会では、各自の記録をもとに各グループで「つまずき」を洗い出す。
- ③ 各グループであがった「つまずき」を、グループ司会がスプレッドシートに記入する。
- ④ シートに集約された「つまずき」から1つ取り上げ、それに対する改善案を各グループで検討する。
- ⑤ 「つまずき」と改善策をまとめたものを授業者にフィードバックする。



【スプレッドシートで意見の共有】

授業観察のポイントを生徒たちの「つまずき」に焦点付け、RSの視点で生徒たちの「つまずき」に対する改善策を検討することで、どうすればより良い授業ができるかを、事実に基づいて具体的に協議していました。授業改善につながる素晴らしい取組です。協議会の進め方を考える際に、ぜひ参考にしてください。

RSTの結果を活用した個別最適な学びの取組が進められています

7/31の第2回研究主任会において、教育のための科学研究所上席研究員の目黒朋子様より「RS（リーディングスキル）ノート」という学習法をご紹介いただきました（詳しくは前号をご覧ください）。この学習法は、リーディングスキルテスト（RST）の個々の結果を活用して個別最適な学びを実現する有効な方法であり、更なる学力向上への効果が期待できます。

吉田中学校では、この学習法を参考にし、RSTの結果を活用した個別最適な学びの取組を9月から進めています。取組の詳細については、11/2の「読解力」育成プロジェクト全体研修会にて公開します。当日は、教育のための科学研究所代表理事・所長の新井紀子様より、ご指導いただく予定です。吉田中学校の取組に、ぜひご注目ください。